

令和5年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

志の高いリーダーを育成する学校

「世のため人のため、世界のため」という社会貢献意識を強くもち、気品に溢れる、情操豊かな生徒を育て、その進路実現を叶える学校

めざす学校像を示す4つのキーワード

- 1 「心を鍛える」…生徒が互いに励ましあい支えあいながら切磋琢磨し成長できる学校
- 2 「知を究める」…グローバル社会で活躍できる高い学力をつける学校
- 3 「人と繋がる」…互いの違いを認め合う豊かな人間性を醸成する学校
- 4 「将来を描く」…将来にわたる社会との繋がり方を描き、社会的貢献できる人材を育成する学校

2 中期的目標

1 グローバル社会を生き抜く高い学力を育成する

(1) 生徒自身が学力向上のプロセスと進捗を確認できるツールの活用

- ア 「模試振り返りシート」・「ポートフォリオ」を活用したPDCAサイクルによる学力の向上
- イ 基礎学力調査や教育産業による学力分析システムで生徒自身が学力定着度を確認するための生徒1人1台端末の活用
* 生徒向け学校教育自己診断における関連項目の肯定的回答率の向上 (R2:80.3% R3:81.8% R4:74%→R7:80%超維持)

(2) 教員の授業力の向上

- ア 授業力向上プロジェクトチーム(JKP)の先導による「主体的・対話的で深い学び」の推進と、それに伴う思考力・判断力・表現力の育成
- イ 生徒による授業評価の活用。教員の公開授業、研究授業を含めた校内研修の推進。外部への授業公開。
* 生徒向け学校教育自己診断における関連項目の肯定的回答率の向上 (R2:83.3% R3:84.2% R4:79.0%→R7:80%超維持)

(3) 泉陽プレミアム(1・2年補習)・泉陽プレミアム+(3年進学講習)の組織的な実施

- ア 各教科・進路指導部・教務部の連携による講習・補習の充実
* 生徒向け学校教育自己診断における関連項目の肯定的回答率の向上 (R2:78.3% R3:85.3 R4:87.5%→R7:80%超維持)

(4) リーディングGIGAハイスクールとしての取組みの推進

- ア 1人1台端末を含めたICT機器活用による授業づくりに向けた組織体制の整備及び、教員研修・学習会の実施
* 教員向け学校教育自己診断における関連項目の肯定的回答率の向上 (R3:98.4 R4:94.0%→R7:90%超維持)

2 高い志をはぐくみ、すべての生徒の進路実現をめざす

(1) 自らの将来像を描く力を育成し、モチベーションの高揚を図るキャリア教育の充実

- ア 職業調べや探究活動を通じた、将来の進路や生き方について考える力の育成
* 生徒向け学校教育自己診断における関連項目の肯定的回答率の向上。(R2:88.6% R3:84.5% R4:83.4%→R7:85%超維持)

(2) チーム泉陽による生徒支援体制の確立

- ア 進路指導部による教育産業と連携した生徒学力の分析会の実施と、統合ICTを活用した情報共有化の推進
- イ 進学指導力向上のための模試・学力生活実態調査の結果分析会の充実
* 生徒・保護者向け学校教育自己診断における関連項目の肯定的回答率の向上
(R2:生徒89.1%・保護者84.0% R3:生徒89.6%・保護者85.0% R4:生徒87.0%・保護者85.6%→R7:85%超維持)
* 現役で国公立大学に合格する生徒の在籍者数に対する割合の維持 (R2:41.3% R3:36.1% R4:35.0%→R7:40%超維持)
- ウ SC、SSW等の外部人材の活用による教育相談・生徒支援体制の整備と、外部機関とのスムーズな連携体制の確立
* 生徒向け学校教育自己診断における関連項目の肯定的回答率の向上 (R2:82.3% R3:84.3% R4:67.5%→R7:80%超維持)

(3) 第4次大阪府子ども読書活動推進計画に基づく読書活動の推進と幅広い教養の育成

- ア 朝読や授業での学校推薦図書「泉陽の500冊」の活用による読書習慣の確立
* 生徒向け学校教育自己診断における関連項目の肯定的回答率の向上 (R2:54.2% R3:51.7% R4:49.4%→R7:60%超)

3 人としての豊かな見識と情操を育てる

(1) リーダーシップ、パートナーシップ、協力協働の社会的精神の育成

- ア 「部活動の在り方に関するガイドライン」に沿った部活動の持続と学習時間の保障
* 部活動加入率90%超の維持(1年次)(R2:94.2% R3:97.5% R4:93.1%→R7:90%超維持)
* 生徒向け学校教育自己診断における関連項目の肯定的回答率の向上 (R2:72.9% R3:75.4% R4:76.7%→R7:75%超維持)
- イ 生徒会活動の活性化による「自主的な学校行事」の促進
* 生徒向け学校教育自己診断における関連項目の肯定的回答率の維持 (R2:97.4% R3:97.8% R4:96.4%→R7:90%超維持)
- ウ 堺市堺区や堺警察と連携した清掃活動・ボランティア活動の推進と、1部活動1ボランティア運動の実施
* 生徒向け学校教育自己診断における関連項目の肯定的回答率の向上 (R2:85.2% R3:87.8% R4:84.9%→R7:80%超維持)

(2) 「道徳教育推進教師」を中心とした道徳教育の充実による、豊かな人権感覚・望ましい生活態度・社会のリーダーにふさわしい感性と情操の育成。

- ア 人権教育推進委員会による、教育活動全体を通じた人権感覚の醸成。
* 生徒向け学校教育自己診断における関連項目の肯定的回答率の向上。(R2:79.9% R3:80.6% R4:82.2%→R7:80%超維持)
- イ 「遅刻ゼロ」運動と「自分からあいさつ」の推進
* 遅刻数(1クラス当たり)の前年度比5%減少(R2:50回《参考値》 R3:69回 R4:110回→R7:50回以下)
- ウ 多様性を育み、論理的に物事を考え、自分の考えを的確に伝える力の育成
* 生徒向け学校教育自己診断における関連項目の肯定的回答率の向上 (R2:77.0% R3:77.5% R4:70.8%→R7:80%超)

4 チーム泉陽として課題解決にあたる教員集団をつくる

(1) 学校の教育課題に対して全員で取り組む雰囲気醸成

- * 教職員向け学校教育自己診断における関連項目の肯定的回答率の向上 (R2:64.4% R3:66.7% R4:66.0%→R7:70%超)

(2) 見直しによる業務の削減及び、効率化と平準化の推進

- * 時間外勤務時間の減少と、月80時間以上の解消。(R2:29時間11分 R3:29時間02分 R4:35時間53分→R7:28時間未満)

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔令和 年 月実施分〕	学校運営協議会からの意見																																																														
<p>■学校教育自己診断の実施方法と回収率について</p> <p>令和4年度に引き続き、「さくら連絡網」のアンケート機能を利用した。回収率等は以下のとおり。</p> <table border="1" data-bbox="153 403 947 602"> <thead> <tr> <th></th> <th>実施日</th> <th>回答数</th> <th>R 5</th> <th>R 4(参考)</th> <th>質問項目</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>生徒</td> <td>12月18日～22日</td> <td>831/949</td> <td>87.6%</td> <td>81.4%</td> <td>23</td> </tr> <tr> <td>保護者</td> <td>12月11日～22日</td> <td>845/949</td> <td>85.2%</td> <td>84.9%</td> <td>23</td> </tr> <tr> <td>教職員</td> <td>12月04日～18日</td> <td>59/59</td> <td>100%</td> <td>76.9%</td> <td>20</td> </tr> </tbody> </table>		実施日	回答数	R 5	R 4(参考)	質問項目	生徒	12月18日～22日	831/949	87.6%	81.4%	23	保護者	12月11日～22日	845/949	85.2%	84.9%	23	教職員	12月04日～18日	59/59	100%	76.9%	20	<p>第1回目(5/18)</p> <ul style="list-style-type: none"> ICTの取り組み、リーディング GIGA ハイスクールの取り組みが順調とのこと。企業は情報関連の強い生徒を求めている。高校のうちから情報に興味を持たせるアドバイスを行うなど、さらなる発展を希望する。 進路について「自分の希望進路を貫く」校風、生徒の姿勢が良い。コロナ禍で満足に学校行事ができなかったことを踏まえ、生徒活動の継承を心がけてほしい。 観点別評価のパフォーマンス課題について、生徒の負担を軽減するために他府県の先事例を参考にするとよい。 																																						
	実施日	回答数	R 5	R 4(参考)	質問項目																																																										
生徒	12月18日～22日	831/949	87.6%	81.4%	23																																																										
保護者	12月11日～22日	845/949	85.2%	84.9%	23																																																										
教職員	12月04日～18日	59/59	100%	76.9%	20																																																										
<p>I. 昨年と同様、三者ともに肯定率が高いもの（質問項目は保護者向けのもので記述）</p> <table border="1" data-bbox="138 691 1016 1320"> <thead> <tr> <th rowspan="2">質問項目</th> <th colspan="2">生徒</th> <th colspan="2">保護者</th> <th colspan="2">教職員</th> </tr> <tr> <th>R 5</th> <th>R 4</th> <th>R 5</th> <th>R 4</th> <th>R 5</th> <th>R 4</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>お子さんは学校に行くのを楽しみにしている</td> <td>89.5</td> <td>85.0</td> <td>87.6</td> <td>84.6</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>学校は、社会に役立つ有為な人材を育成しようとしている</td> <td>85.6</td> <td>84.9</td> <td>93.1</td> <td>92.0</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>学校の人権教育の取り組みに満足している</td> <td>90.1</td> <td>88.7</td> <td>83.4</td> <td>87.3</td> <td>83.1</td> <td>76.0</td> </tr> <tr> <td>学校の安全教育・防災教育の取り組みに満足している</td> <td>86.1</td> <td>85.7</td> <td>82.8</td> <td>83.6</td> <td>84.7</td> <td>88.0</td> </tr> <tr> <td>学校は保護者やお子さんに必要な進路情報を適切に提供している</td> <td>91.3</td> <td>87.0</td> <td>89.0</td> <td>85.6</td> <td>98.3</td> <td>96.0</td> </tr> <tr> <td>体育祭、文化祭などは生徒の力で自主的に運営されている</td> <td>97.0</td> <td>96.4</td> <td>96.0</td> <td>90.6</td> <td>96.6</td> <td>92.0</td> </tr> <tr> <td>学校はホームページ・ブログや「さくら連絡網」などで情報をよく提供している</td> <td>93.1</td> <td>94.0</td> <td>97.0</td> <td>94.8</td> <td>96.6</td> <td>98.0</td> </tr> </tbody> </table> <p>【分析】</p> <p>(1) 学校生活 生徒・保護者ともに満足感があり、かつ学校の教育活動についての期待度は大きい。</p> <p>(2) 情報提供 「さくら連絡網」等を大いに活用し、進路情報など学校の情報が生徒・保護者に届いている。</p> <p>(3) 生徒会活動 体育祭・文化祭など、生徒会を中心として生徒が自主的に企画運営するスタイルが満足度の高さにあられている。</p>	質問項目	生徒		保護者		教職員		R 5	R 4	R 5	R 4	R 5	R 4	お子さんは学校に行くのを楽しみにしている	89.5	85.0	87.6	84.6	—	—	学校は、社会に役立つ有為な人材を育成しようとしている	85.6	84.9	93.1	92.0	—	—	学校の人権教育の取り組みに満足している	90.1	88.7	83.4	87.3	83.1	76.0	学校の安全教育・防災教育の取り組みに満足している	86.1	85.7	82.8	83.6	84.7	88.0	学校は保護者やお子さんに必要な進路情報を適切に提供している	91.3	87.0	89.0	85.6	98.3	96.0	体育祭、文化祭などは生徒の力で自主的に運営されている	97.0	96.4	96.0	90.6	96.6	92.0	学校はホームページ・ブログや「さくら連絡網」などで情報をよく提供している	93.1	94.0	97.0	94.8	96.6	98.0	<p>第2回目(11/28)</p> <ul style="list-style-type: none"> 制服についての議論は避けて通れなくなっている。セーラー服はLGBTへの対応が難しい。ただ、伝統ある学校の制服の改定ほど慎重さが求められる。制服を着る当事者の生徒はどう思っているのか。生徒の意見を聞くことは当然であるが、保護者・同窓会・教員など、あらゆる人の意見をよく聞き丁寧な議論を望む。 女子がスラックスを選択できるのは望ましいことである。男女とも着用できるユニバーサルデザインを望む。プレーザータイプもよいが、中学校からセーラー服がなくなっている昨今、セーラー服が目新しくなっているのではないか。 遅刻者が増加しているのは本校だけでなく、日本全体の傾向である。コロナ禍以降、学校に対する意識が明らかに変わっている。中学生へ授業や部活動など、高校生の一日をイメージしやすい機会の提供が必要である。 <p>第3回目(2/8)</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校教育自己診断の結果について、おおむね自己診断の結果が肯定的であり、学校運営がうまくいっていると思われる。総合的な探究の時間に関する生徒と教職員の意識の差が認められるものの、生徒は自分の役に立っていると回答しており、探究の時間を通して育まれる力について肯定的であると見るべき。 令和6年度学校経営計画については、令和5年を踏襲しつつ、進路指導では個別最適化の観点を明確に打ち出す指標として「GTZ」を活用することになっている。これについては、客観的に把握できてよい。 あわせて、進路指導体制を「泉陽キャリアグラウンドデザイン(CGD)」として明確化し、さらなる進学実績の向上につなげる方針についても賛同。 また、国際交流を推進し、異文化や多様性の理解・国際的に活躍できる人材の育成を明確にしたことについても了解。 学年、分掌からの報告において、遅刻・欠席の数の増加についてやや懸念する。コロナ禍以前の意識に戻るには年月がかかると思われるが、生徒にとって学校生活が魅力的になることが一番の解決策であると思われる。
質問項目		生徒		保護者		教職員																																																									
	R 5	R 4	R 5	R 4	R 5	R 4																																																									
お子さんは学校に行くのを楽しみにしている	89.5	85.0	87.6	84.6	—	—																																																									
学校は、社会に役立つ有為な人材を育成しようとしている	85.6	84.9	93.1	92.0	—	—																																																									
学校の人権教育の取り組みに満足している	90.1	88.7	83.4	87.3	83.1	76.0																																																									
学校の安全教育・防災教育の取り組みに満足している	86.1	85.7	82.8	83.6	84.7	88.0																																																									
学校は保護者やお子さんに必要な進路情報を適切に提供している	91.3	87.0	89.0	85.6	98.3	96.0																																																									
体育祭、文化祭などは生徒の力で自主的に運営されている	97.0	96.4	96.0	90.6	96.6	92.0																																																									
学校はホームページ・ブログや「さくら連絡網」などで情報をよく提供している	93.1	94.0	97.0	94.8	96.6	98.0																																																									
<p>II. 昨年と同様、三者(二者)ともに肯定率が低いもの（質問項目は保護者向けまたは教員向けのもので記述）</p> <table border="1" data-bbox="128 1822 1026 2139"> <thead> <tr> <th rowspan="2">質問項目</th> <th colspan="2">生徒</th> <th colspan="2">保護者</th> <th colspan="2">教職員</th> </tr> <tr> <th>R 5</th> <th>R 4</th> <th>R 5</th> <th>R 4</th> <th>R 5</th> <th>R 4</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>「総合的な探究」などの学習活動によって、思考力・情報を収集する力・発表する力が身につくと言っている</td> <td>70.8</td> <td>70.0</td> <td>67.9</td> <td>70.5</td> <td>47.5</td> <td>66.0</td> </tr> <tr> <td>読書の習慣がある</td> <td>39.0</td> <td>49.4</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>49.2</td> <td>56.0</td> </tr> <tr> <td>学校の施設・設備全般について、適切に整備されている</td> <td>43.6</td> <td>62.2</td> <td>55.4</td> <td>62.1</td> <td>30.5</td> <td>28.0</td> </tr> </tbody> </table> <p>【分析】</p> <p>(1) 探究活動</p> <ul style="list-style-type: none"> 週1回の授業を通じて、1年生はグループで、2年生は個人で、テーマを主体的に設定し、情報の収集や整理・分析をまとめていくといった能力の育成を目的としている。 昨年度からの取組であるが、課題と感じていることは「授業案やカリキュラムの設計」「校内で探究学習への理解が広がらない」「調べ学習で終わってしまう」があげられる。また、「外部との連携・協働に関する課題」もあげられ、学校全体で取組む体制づくりが急務である。 <p>(2) 読書の習慣</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒回答(1年49.8%、2年23.8%、3年43.3%)が示す通り、学年で読書の習慣の差異がある。 現在の本校の読書指導として、「朝読書の時間(5分間)」ならびにビブリオバトル大会やリーディングマラソンがあるが、読書の習慣にどのような効果があるのかを検証する必要がある。それを踏まえ、学校としてどう読書指導のありかたを進めていくか、議論する必要がある。 <p>(3) 学校の施設設備</p> <ul style="list-style-type: none"> トイレの改修など年々進めている。 	質問項目	生徒		保護者		教職員		R 5	R 4	R 5	R 4	R 5	R 4	「総合的な探究」などの学習活動によって、思考力・情報を収集する力・発表する力が身につくと言っている	70.8	70.0	67.9	70.5	47.5	66.0	読書の習慣がある	39.0	49.4	—	—	49.2	56.0	学校の施設・設備全般について、適切に整備されている	43.6	62.2	55.4	62.1	30.5	28.0																													
質問項目		生徒		保護者		教職員																																																									
	R 5	R 4	R 5	R 4	R 5	R 4																																																									
「総合的な探究」などの学習活動によって、思考力・情報を収集する力・発表する力が身につくと言っている	70.8	70.0	67.9	70.5	47.5	66.0																																																									
読書の習慣がある	39.0	49.4	—	—	49.2	56.0																																																									
学校の施設・設備全般について、適切に整備されている	43.6	62.2	55.4	62.1	30.5	28.0																																																									

- ・令和7年度以降、段階的に学校の整備が進められる予定である。

Ⅲ. 昨年比較で肯定率が5%程度以上、上回っているもの（昨年・今年度比較）

質問項目	生徒		保護者		教職員	
	R5	R4	R5	R4	R5	R4
学校は健康・保健に関する情報をよく提供している。	—	—	89.0	77.5	—	—
学校は、お子さんが卒業生や社会で活躍する方からの話を聞く機会を提供している。	67.3	85.3	82.9	76.1	93.2	86.0
授業の理解度に応じて、生徒が参加できる補習や講習を行っている。	93.5	87.5	—	—	—	—
学校は命の大切さや社会のルールを学ぶ機会を提供している。	87.4	82.2	—	—	—	—
教員によるICT機器の使用は、授業内容を理解する上で効果的である。	90.6	74.0	—	—	—	—
ICT機器(パソコン・タブレット電子黒板など)を教科の学習指導や進路学習などに活用している。	—	—	—	—	96.6	84.0
学校生活の困りごとや相談に親身になって対応してくれる教員がいる。	80.9	67.5	—	—	—	—
教育相談体制やいじめが起こった際の体制が整っており、迅速に対応することができる	—	—	—	—	98.3	84.0
学校運営に教職員の意見が反映されている。	—	—	—	—	84.7	80.0
学校の教育活動において、教職員が日常的に話し合っている。	—	—	—	—	76.3	66.0

【分析】

(1) 健康・保健

「さくら連絡網」等を活用し、保健通信を発行し、また、校内掲示を行うなど、きめ細やかな取組みが支持されている。

(2) 進路指導関係

- ・ロングホームルームの時間を活用し、いろいろなジャンルの外部講師を招く取組みを行っている。

- ・生徒はR4比で18%低下している。理由として、生徒の質問文「卒業生や社会で活躍する方の話を聞く機会が多く、刺激を受ける」とあり、内容への満足度や理解度が低下したと考えられる。

(3) 補習・講習

- ・本校の授業や講習の目標は、進路実績の通りの国公立大学や関西有名私立大学を意識したものであり、生徒や保護者のニーズに合致していることが評価された。

(4) 命の大切さ・社会のルールを学ぶ機会

- ・ロングホームルームの時間を活用し、いろいろなジャンルの外部講師を招く取組みを継続的に行っている。

(5) ICTを活用した授業

- ・今年度からICT（情報通信技術）部を組織として立ち上げ、学校全体で取組む体制を構築した。
- ・プロジェクトの導入に加え、ICT部主導で10分職員研修を実施し、教員の技術力向上につながった。

(6) 教育相談にかかる事項

- ・今年度から教育相談体制を強化し、SC・SSW・行政等の外部機関との連携を深め、早期対応が可能になった。
- ・「教育相談室」を新しく整備した。

(7) 教員の意見が反映

- ・校長から「首席連絡会」や「学年主任会議」の内容を掲示板に掲載することで、現在学校が何に取り組んでいるのかの見える化につながっている。
- ・スクールミッション策定・制服に関する項目等のグループワークを通じて、意見交流の場が増えたことも考えられる。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R4年度値]	自己評価
1 グローバル社会を生き抜く高い学力を育成する	(1)学力向上の進捗を確認できるツールの活用 (2)教員の授業力の向上 (3)泉陽プレミアム・プレミアム+の組織的な実施 (4)リーディングGIGAハイスクールとしての取組推進	(1)ア 「模試振り返りシート」・「ポートフォリオ」を活用したPDCAサイクルによる学力の向上。 イ 1人1台端末の活用による学力定着度の確認。 (2)ア 授業力向上PTの取組に積極的に関与し、自らの授業改善をめざす。 イ 授業アンケートの振り返りシートを授業力向上に活かし、「主体的・対話的で深い学び」を授業で実践する。 (3)ア ・各教科・進路指導部・教務部が連携して、講習・補習を組織的に実施する。 ・各教科で最終目標を設定した上で、必要な内容を講習として設定する。 (4)ア リーディングGIGAハイスクールの取組推進母体となる組織を整備する。 イ 電子機能付黒板や1人1台端末を活用した授業実践に向けた研修を企画し、魅力ある授業づくりを図る。	(1)アイ 生徒向け自己診断「Chromebookを教科の学習や進路学習などに活用している」の肯定率80%以上。[74.0%] (2)ア 生徒向け自己診断「分かりやすく興味が持てる授業が多い」の肯定率80%以上。[79.0%] イ 教員向け自己診断「教材や教え方に様々な工夫をしている」の肯定率90%以上。[94.0%] (3)ア 生徒向け自己診断「学校の授業や補習、講習で進路達成に必要な学力が身につく」の肯定率85%以上。[87.5%] (4)アイ 教職員向け自己診断「Chromebookを教科の学習指導や進路学習に活用している」の肯定率85%以上。[84.0%]	(1)アイ 生徒向け自己診断は質問項目を見直し「教員によるICT機器(PC・タブレット・電子黒板等)の使用は、授業内容を理解する上で効果的である」の肯定率は90.6%。(○) (2)ア「分かりやすく興味が持てる授業が多い」の肯定率は79.8%。(○) イ「教材や教え方に様々な工夫をしている」の肯定率は96.6%。(○) (3)ア 生徒向け自己診断は質問項目を見直し「授業の理解度の応じて、生徒が参加できる補習や講習を行っている」の肯定率は93.5%。(○) (4)アイ 教職員向け自己診断は質問項目を見直し「ICT機器(PC・タブレット・電子黒板など)を教科の学習指導や進路学習などに活用している」の肯定率は96.6%。(○)
2 高い志を高くみ、すべての生徒の進路実現をめざす	(1)モチベーションの高揚を図るキャリア教育の充実 (2)チーム泉陽による生徒支援体制の確立 (3)読書活動の推進	(1)ア 探究活動や職業調べ、大学説明会や大学訪問、卒業生の講話などを通して、高い志を育む。 (2)ア 学年ごとに全教科担当者が参加する生徒の学力分析会を実施し、その分析結果を踏まえ、教科としての対応・取組を明確化する。 イ「Chromebookを活用した進路指導マニュアル」を作成し、研修・学習会を実施し教員の進路指導力の向上を図る。 ウ 教育相談・生徒支援体制の組織的整備を行い、SC・SSW等の外部人材の活用を図る。 エ ホームページやブログ記事、また「さくら連絡網」による進路ニュースや保健だよりなど各種文書の配信によって、生徒の検診結果や学校の状況を保護者等に届け、生徒支援に繋げる。 (3)ア 朝読や授業での学校推薦図書「泉陽の500冊」の活用、委員会活動やビブリオバトルなどの取組を進め、読書習慣を身につけさせる。	(1)ア 生徒向け自己診断「本校の進路指導は将来の進路や生き方について考える上で役立つ」の肯定率85%以上。[83.4%] (2)アイ・現役国公立大学合格者の在籍者に対する割合の40%維持。[35.0%] ・自己診断「学校は進路HRなどで進路についての情報をよく知らせてくれる」の肯定率85%以上。[生徒87.0%、保護者85.6%] ウ 生徒向け自己診断「困っていることや悩みを相談できる先生がいる」の肯定率80%以上。[67.5%] エ・保護者向け自己診断「生徒の健康に関する情報提供」の肯定率80%以上。[77.5%] ・保護者向け自己診断「学校は情報をよく提供している」の肯定率85%以上。[94.8%] (3)ア 生徒向け自己診断「読書する習慣がある」の肯定率を上げる。[49.4%]	(1) 生徒向け自己診断は質問項目を見直し「本校の進路指導は将来の進路を選択する上で役に立つ」の肯定率は86.9%で目標を達成した。(○) (2) アイ 現役国公立大学合格者は110名で在籍者割合は35.1%。(△) ・「学校は進路HRなどで進路についての情報をよく知らせてくれる」の肯定率は、生徒91.3%、保護者89.0%。(○) ウ 生徒向け自己診断は質問項目を見直し「学校生活の困りごとや相談に親身になって対応してくれる教員がいる」の肯定率は80.9%。(○) エ・保護者の保健情報に関する肯定率は89.0%。(○) ・「学校は情報をよく提供している」の肯定率は97.0%。(○) (3)「読書をする習慣がある」の肯定率は39.0%で低下傾向が続いている。(△)
3 人としての豊かな見識と情操を育てる	(1)協力協働の社会的精神の育成 (2)社会のリーダーにふさわしい感性と情操の育成	(1)ア 「部活動の在り方に関するガイドライン」に沿った部活動で学習との両立をめざす。 イ 「自主的な学校行事」が行えるよう、学校行事に対する生徒の自主的関与をさらに深める工夫を行う。 ウ 堺市堺区や堺警察と連携し、生徒会や部活動ごとのボランティア活動や清掃活動を推進する。 (2)ア 人権教育推進委員会・道徳教育推進教師が先導役となり、人権HRや体験学習を実施する。 イ 「遅刻ゼロ」運動を全校統一して指導を行うことにより遅刻を減少させる。 ウ 行事等の自主運営などさまざまな機会を活用し、多様性を育み、論理的に物事を考え、自分の考えを的確に伝える力の育成に努める。	(1)ア 生徒向け自己診断「部活動と勉強の両立ができている」の肯定率75%以上。[76.7%] イ 生徒向け自己診断「文化祭・体育祭は生徒の力で自主的に運営されている」の肯定率90%以上。[96.4%] ウ 生徒向け自己診断「社会に役立つ有為な人材を育成しようとしている」の肯定率85%以上。[84.9%] (2)ア 生徒向け自己診断「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある」の肯定率80%以上。[82.2%] イ 遅刻数前年度比5%減少[110回/クラス] ウ 生徒向け自己診断「『総合的な探究』などの学習活動によって、思考力、情報収集力、発表力が身につく」を前年度より上げる。[70.8%]	(1)ア 「部活動と勉強の両立ができている」の肯定率は75.2%。(○) イ 「文化祭・体育祭は生徒の力で自主的に運営されている」の肯定率は97.0%。(○) ウ「学校は社会に役立つ有為な人材を育成しようとしている」の肯定率は85.6%。(○) (2)ア 「学校は命の大切さや社会のルールを学ぶ機会を提供している」の肯定率は87.4%。(○) イ 遅刻数は149回/クラスとなり、昨年から大幅に増加した。(△) ウ 「『総合的な探究』によって思考力、情報収集力、発表力が身につく」の肯定率は70.0%。(△)
4 決にあたる教員集団をつくる	(1)全員で取り組む雰囲気醸成 (2)業務の削減・効率化・平準化の推進	(1)ア スクール・ポリシーの策定などに向けても、グループワークによるワークショップや、各種学習会を企画する。 (2)ア・「働き方改革」に基づいて、学校閉庁日・全校一斉定時退庁日を設定する。 ・各分掌等におけるルーティン業務を見直し、削減・効率化を図る。	(1)ア 教職員向け自己診断「学校の教育活動について、教職員が日常的に話し合っている」の肯定率を前年度より上げる。[66.0%] (2)ア 教職員の時間外勤務時間を前年度より減少させる。[35時間53分] ・時間外勤務月80時間以上の職員を前年度より半減させる。[延べ36人]	(1)教職員向け自己診断「教育活動について、日常的に話し合っている」の肯定率は76.3%と10ポイント以上上昇。(◎) (2)教職員の時間外勤務時間の月平均は32時間10分で、約10%の減を達成。(◎) ・時間外勤務月80時間以上の職員は延べ11人で、昨年の約3分の1となった。(◎)